

ペレット堆肥を使った米作り（湿田）

湿田での米作りでは、牛ふんおよび鶏ふんペレット堆肥を基肥として入れることで、化学肥料の使用量を減らすことができます。

農水省 土壌由来温室効果ガス計測・抑制技術実証普及事業(H20～24年度)

○施用方法（品種ヒノヒカリ）

基肥として水田（湿田）に10a当たり牛ふんペレット堆肥を窒素で10kg（現物580kg程度）、鶏ふんペレット堆肥を窒素で8.6kg（現物370kg程度）施用し、穂肥として化学肥料で10a当たり窒素成分を2kg施用します。

○収量は増加・品質は同等，土中の無機成分が増加

化学肥料と比べて収量は優れ，品質は同等です（図1）。堆肥5年間の連用により窒素，可給態リン酸，交換性塩基が増加するため注意が必要です（図2，図3）。

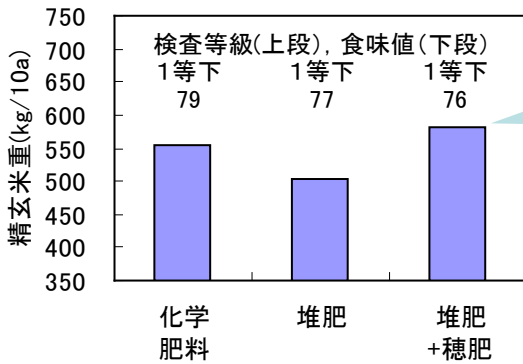


図1 水稲の収量と品質
(5年間の平均値)

堆肥施用と穂肥で
収量は増加

堆肥施用で地力は向上するが
無機成分の上昇に注意

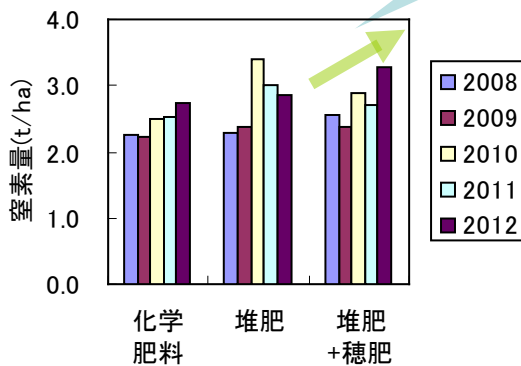


図2 作土中の窒素量推移
(平均深さ15cm)

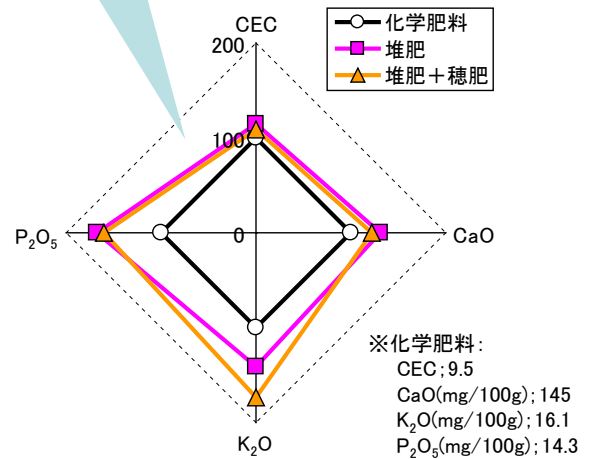


図3 ペレット堆肥5年連用後の作土の化学性
(化学肥料を100とした値)